

<伝統と特色のある研究調査>

※囲み線がついている3冊は、アーカイブとして掲載した資料があるもの

明治の末頃から全県的に昭和諸々の教育の営みの基調を郷土研究に求むべし昭和という思潮が高まり、郷土研究が盛んになる。

昭和のはじめ頃に、全県的に郷土研究が盛んに行なわれてきたが、本郡においては、大正時代より研究、調査が行われてきた。

大正 2年 下水内郡誌発刊（下水内教育会より）

大正 3年 地図を十月印刷発行

大正 4年 郡誌補（補遺下水内郡訪）を出版

大正 14年 湖沼学の大家田中阿歌麿博士に依頼して、七月十六日より数日間、桂池、茶屋池、沼池、北竜湖等の臨地調査

大正 15年 下水内郡地図完成 修正図を印刷

昭和初年から郷土の調査研究は断続的に行われてきた。

昭和 3年 下水内郡地質誌の編纂と地質図の作製を計画に沿った郡内全地城及び隣接各地の実地調査

昭和 4年 南部・中部・北部組合職員会共催で、郷土資料についての講話

五郡聯合教育会が共同で郷土史の研究のため五郡郷土史研究委員会を設立（やがて六郡合同研究委員会になる）

昭和 5年 下水内郡地質図と下水内郡地質誌を刊行頒布。完成した地質図と地質誌の説明講習会を飯山中学校講堂で行う

三沢勝衛氏の指導で郡内一帯の地理臨地調査

郷土の歴史関係では地元の栗岩英治氏の指導で郡内各地の歴史臨地調査・講演

郷土地理について三沢勝衛先生を招き、弓削春穂先生が中心になって「下水内郡地理資料」4冊作成

この頃、教育会に郷土歴史委員会・郷土地理委員会などがおかれた（南・中・北部の職員会にも、これと同じ委員会が設けられた）南部・中部・北部の各組合職員会（支会）においても、それぞれ郷土研究委員会を設けて、古文書その他の史料・史蹟・年中行事・人物等の調査を年々継続しておこなった。

昭和 7年 第六回六郡郷土史研究委員会を松代小学校で開催

昭和 9年 下水内郡地理資料第一輯を印刷して頒布

昭和 10年 中部組合職員会主催で、歴史臨地調査

昭和 12年 下水内郡地理資料第二輯（飯山・秋津・永田・豊井二〇六ページ）を印刷頒布。

郡誌編纂刊行を実現するため会員は俸給の二百分の一を醸出することにした。

郷土生活史料展覧会を飯山小学校で開催

昭和 13年 下水内郡地理資料第三輯（常盤・柳原・外様・太田三〇三ページ）を印刷頒布、

昭和 17年 地理と歴史の二つの委員会に分れて十ヶ年余調査研究を継続してきた郷土研究委員会は地理と歴史の委員会を合併して、郷土研究委員会となった。

十二回郡内各地の臨地調査及び調査結果についての講話を実施

- 昭和 20 年 下水内郡地理資料第四輯（岡山・水内）を印刷。太田・外様・飯山・豊井の各地を臨地調査しその結果を報告
- 昭和 21 年 栗岩英治氏が病で死去 郡誌編纂の事業は一時中絶
- 昭和 24 年 下水内郡先史時代遺跡分布図及び解説書を作り頒布
- 昭和 26 年 「下水内郡史料集（下水内郡歴史資料集）」や「下水内郡先原史時代考」などを発行
地理委員会では郷土地理研究家高野豊文先生を講師として、豊井・永田から岡山・水内地区まで実地踏査、「下水内地理資料」の改訂増補についても研究
弓削春穂先生の内地留学の研究成果である「深雪地下水内郡の地理的考察」刊行
- 昭和 27 年 下高井教育会と合同で「下高井・下水内郡地図」を作製
3 ヶ年計画で教育会では郷土研究として郷土の生物（12 名）地理（7 名）歴史（11 名）言語（11 名）の 4 部門を設けた。
郷土研究の調査研究委員を委嘱し、委員会を組織
- 昭和 27 年 地理調査研究委員会による豊井・永田・秋津地域の实地調査
- 昭和 28 年 郷土研究のための予算として生物 2 万円、地理・歴史・言語それぞれ 1 万円を計上した。
- 昭和 29 年 郷土調査は一応予定の 3 ヶ年計画が終了
- 昭和 36 年 郷土研究或いは地理研究という名で誕生した会が社会科同好会となる。
会員の研究を基にして「社会科学習資料」（生徒用）を毎年編集、発行
(1) 豊井・永田・秋津地区（清川扇状地・千曲川峡谷・りんご栽培・安源寺遺跡・神田五大先生収蔵遺物・深沢遺跡・山の神遺跡・田草川尻遺跡）
(2) 木島・瑞穂・常盤地区（木島湛水防除事業・工場団地・花弄栽培・青果市場・小菅神社・民宿・北龍湖・千曲川氾濫原・長峰丘陵、たてのぼせ作り・針湖池）
(3) 柳原・外様・太田地区（地すべり地帯・中門作り・長沢川峡谷・山口城趾・小佐原遺跡・今井館趾・真当院・五荷薬師・北条観音・五束神社）
(4) 岡山・温井地区（田茂木池・茶屋池・出川等浸蝕谷・白山神社・藤沢農場・西大滝ダム・千曲川の曲流）
(5) 水内・堺地区（野々海池と森開田・駅前集落・ミンク飼育・畑地造成地・北野神社・肥育牛・中門作り・常慶院）
(6) 秋山地区（五宝木開拓地・大道牧場・民家の構造・上の原温水路・和山温泉・木製品・切明保養センター）
(7) 飯山地区（スキーエ場・仏壇工場・飯山城趾・忠恩寺・寺町と仏壇町・正受庵・城下町の遺構）
- 昭和 38 年 「高水地方図」は市役所や地方事務所など行政面でもよく利用されていた。
- 昭和 40 年代 社会科研究委員会は主として日案研究を通して学習指導の研究に努めていたが、教科以外でも委員会が設けられるようになる。
- 昭和 45 年 「地域文化の推進開発に資することができるように」と求められ、
- 昭和 46 年 「継続して社会調査の仕事も担うこと」となる。
- 昭和 47 年 「地域課題の基礎的研究や郷土の基礎資料の収集のため」会長委嘱による特別委員会として社会調査研究委員会が新設された。教育会の目的達成に必要なものを研究調査委員会と認めるように、三分類した委員会となる。

- ア、全郡的研修グループ中、研究調査委員会として認めるもの（教科：道徳）
- イ、研修グループ中、信教関連で研究調査委員会として認めるもの
- ウ、会長委嘱による特別委員会（自然調査、社会調査、複式指導、研究テーマ）

- 昭和 50 年 社会調査「飯水の地域社会」報告書発行
- 昭和 52 年 社会調査「飯水地方の年中行事」報告書発行
- 昭和 56 年 社会調査「秋津地区柳久保民俗総合調査」中間報告書（秋津上段地区の民俗調査）
- 昭和 57 年 社会調査「秋津地区柳久保民俗総合調査」中間報告（さかやもん達のくらし）
- 昭和 58 年 社会調査「岡山上段民俗総合調査」中間報告
- 昭和 59 年 社会調査「岡山上段民俗総合調査」中間報告昭和
- 昭和 60 年 教育会の主体性に基づき、研究調査を行うようになる。研修体制構想の見なおし、教職員研修、計画による研修が実施されるようになる。それに伴い、研究調査委員会も会長所嘱の若千名の委員によって組織されるようになる。
- 昭和 61 年 社会調査自然調査「柳久保と周辺地域の民俗」
80 周年（昭和 61 年発行）以後も、特別研究調査委員会の社会調査・自然調査の委員会に引き継がれ研究調査が行なわれている
- 昭和 62 年 社会調査自然調査「岡山上段地域の民俗」発行
- 昭和 63 年 社会調査「栄村箕作集落の道祖神のカンジン（勸進）」調査
- 平成 2 年 社会調査自然調査「極野集落における民俗
- 平成 3 年 社会調査自然調査「厳しい自然の条件と民間伝承」～栄村極野の民俗～・
- 平成 5 年 社会調査自然調査「栄村の民俗」 発刊
- 平成 7 年 社会調査自然調査「飯水の地域社会 ～社会・経済・生活の変化～」
研究調査報告書「栄村東部（塚）地区総合調査」中間報告
- 平成 11 年 社会調査「飯水の地域社会Ⅱ～その現状と変貌～」 発刊
- 平成 17 年 社会調査「富倉・大川の民俗」発刊
- 平成 19 年 事例集「授業に使える学習素材とその教材化」発行
- 平成 24 年 「飯水の地域社会～その現状と変貌～」報告
- 平成 26 年 「飯水の地域社会～県内外に発信したい飯水の宝物を求めて～」報告
- 令和 4 年 「飯水の地域社会～ふるさと飯水における、誇れる地域素材を求めて～」報告
- 令和 6 年 「調査報告書アーカイブ」飯水教育会ホームページに掲載